俳諧十家類題集

冬

中村俊定文庫
文庫 18
711
4

宮城縣立圖書館

俳諧十家類聚集冬之部

○月部

十月　乏冬　初冬　小春　神無月　玄猪

達摩忌一　陰命講　十夜　陰取線　戒講　失食壹

爐　爐開二　口切　不いろ　火爐　埋火

火桶三　火鉢　衣替冬　冬の衣　初時雨四　時雨五

初霜　霜　霜解七　冬　砧　落葉八　木の葉

風九　冬木乏　枯　木冬　枯　枇杷の巻　帰り巻

山茶花　茶花十　枯尾巻　枯野　冬野　冬系

冬川　冬の月　冬の系十一　石蕊花　大根引　冬菜

厚岡文庫

茎漬　茎引　麦藷　風呂吹　茎汁　納豆
納豆汁十二　初雪十三　薄氷　初氷　冬月　ちむさ
納代守十四　納代　千鳥十五　鷗　水鳥　鴨
みくりく十六　鮫　鰤　松茸　冬蝿　十月蠅
蝦　海鼠　鮫汁十七　鱈　魴　鰊　藻魚十八
炭竈　炭焼　炭　炭取　炭賣　炭俵
橋杭　ゆかん　松茸　食十九　帝食　帝子
頭巾二十　厳冠　厳冠　足袋　冬籠廿　冬搗　暦賣
霜月　袴着　冬至　室の梅　冬の梅　梅見也
神楽廿一　星神楽　ちち火燵　紙叩廿三　雪廿四　雪丸
雪やけ　雪吹　雪廿七　玉霰　霰　氷柱

霰の水　氷廿八　冴　仙茎　蕪
鷹　鷹狩　霰　暖　鰊　杜父魚
煮凍　生姜湯廿九　喬麦湯　薬喰　十二月　早梅
霰　梅　冬桂　臘八　霰　仏会三十　仏名会
霰　霰月　霰　松　霰　飛　乾鮭　生鮭廿六
鄭　仮　師走　古暦　煤掃廿七　餅搗　餅花廿八
節季俵　さこね　ちゝ　終　年越　節分　晩冬
年内の春　懸　乞　年の市廿九　米　年積り　年浪
年の瀬　年の夕　年の尾　年の内　流れ年　闇見
年木樵卅　衣配　年の宴　年守　年取　年の雛
年忘　年暮卅一　老の宴　行年卅二　年ゝ　王子孤

俳諧十家類題集冬之部目録終

俳諧十家類題集冬之部

八千坊　輯校

中村俊定文庫

○十月

立冬　[illegible]　沾徳

[illegible]　其角

初冬　[illegible]　蕪村

小春　[illegible]　言水

[illegible]　蕪村

神無月　[illegible]　言水

[illegible]

[illegible]　其角
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]　来山
[illegible]
[illegible]　蕪村
[illegible]　其角
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]　帝因

玄猪

達摩忌

冬一

御命講

十夜

御取越

恵比須講

[illegible]　麦林
[illegible]　芭蕉
[illegible]　言水
[illegible]　希因
[illegible]　麦林
[illegible]　蕪村
[illegible]　芭蕉
[illegible]　其角

福天の庶机のもとに仕切帳　其角
ふるき衣装祝いはひもとり　夷篠
復縁山平ゝゝゝゝ酒の戒ゝ
保氏すやし寒の昨の乳乃　夷ゝ

夷食賣

爐

夷菓乳ゝゝゝゝ夷食賣
粽の眠ゝ結ゝゝゝゝ言水
炉ゝ粽ゝてきゝゝを掠る家家　蕪村

炉開

炉ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ仏ゝゝ食のゝ　其角
炉ひゝゝゝゝゝの日ゝ去ゝゝ世の土産　嵐雪
炉ひゝゝゝゝ雪中庵の雲々　酒　蕪村

口切

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ蛭の庵ゝゝゝゝ　芭蕉
茶の印ゝ中ゝゝゝゝゝゝ瓢汁　其角
口切やゝゝゝゝゝゝゝゝゝ線羅菊　〃
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ小深下ゝゝゝゝ口ゝゝゝ　蕪村
口切やゝゝゝ山氣ゝんとゝの名ゝゝ　〃
ほいろ　ゝひゝゝゝゝ稲　我住ゝいろゝ　其角
火燒　住ゝゝゝ蛭のゝゝ住ゝゝゝ　芭蕉
ゝゝ燒ゝゝゝゝゝ青砥の陸と接ひゝゝ　其角
火燒のゝゝゝゝゝね夢ゝゝ素ゝ接ひ　〃
紙因ゝ内ゝ猿ゝゝ火燒ゝゝ　希因

埋火

火桶

希因
来山
蕪村
其角

火鉢

夜半冬

冬の夜

初時雨、

来山
蕪村
言水
蕪村
其角
芭蕉
言水

[illegible]月の[illegible]のとうとう　和しらも　希因
桐の[illegible]の[illegible]　[illegible]て和しくれ　、
[illegible]葉の[illegible]をうらん和しらも　麦村
甎[illegible]の[illegible]も[illegible]和時雨　、
赤い[illegible]の[illegible]しく和る和時雨　、
[illegible]くる笆の[illegible]和時雨　、
忘しき[illegible]和時雨　、
みのむしの[illegible]和時雨　燕村
和しき[illegible]帽子の[illegible]　、
[illegible]の山[illegible]和しら　希因

冬　四

時雨

時雨する菅麦畑[illegible]和時雨　、
一尾根ハしの[illegible]　芭蕉
傘持て[illegible]ぬ[illegible]村しら　言水
[illegible]ぬ[illegible]時雨　、
天の糸[illegible]糸不二の[illegible]時雨　素堂
旅の旅[illegible]糸[illegible]時雨　、
[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら[illegible]　、
[illegible]柿の[illegible]ら[illegible]ら[illegible]　其角
時雨[illegible]葱　畦の[illegible]柳　、
[illegible]時雨[illegible]偏の[illegible]　、

いつ生こゝをゝ此の国の者の後生　其角

義をきて遠くゝ行くゝ人多く時くれ、

暮こゝゝ夜戸日こゝゝやもゝ時る、

八重ゝ丹楠の板ゝをゝるゝ紙、

梅梅やゝ枝を拾ゝる一ゝゝ毛、

時る麻松松の物干こゝ出ゝ、

今魚を志ゝゝ行ゝて来ゝし、

寺信のゝゝ島を志ゝれゝる、

志ゝゝ行ゝやゝゝゝ厠の一つ雪、

三人の身を西行のゝゝゝ年、

夢ゝゝうゝ人ゝて寝ぬ宮居ゝ時る、

飼猿の引宮ゝゝゝ行ゝゝゝれる、

年明のゝゝゝゝゝゝ時る、

小松ゝゝれ人を多ゝる山居、

笠ゝぬを牛ゝゝゝれる、

時ゝゝ酔やのゝて村　雪、

松ゝの宮ゝゝゝ紙人ゝる時る、

待むゝて茶をゝて志ゝれる、

寺山のみゝゝを着ゝれる、

おゝゝうゝ人をゝひ出て時る、

[illegible]　嵐雪

[illegible]　希因

[illegible]　芭蕉

[illegible]　来山

[illegible]

干飯うり入日淋しく[illegible]

又降るものとうひのしられず　〃

[illegible]　〃

[illegible]　〃

[illegible]　〃

[illegible]　〃

[illegible]　麦林

夕時雨暮ひそかにうち[illegible]　蕪村

[illegible]

古傘の[illegible]　〃

[illegible]　蕪村

[illegible]

[illegible]

[illegible]　其角

霜

[illegible]　言水

[illegible]　素堂

[illegible]　其角

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

霜解

冬　砧

落葉

[illegible]　蕪村

[illegible]　沾徳

[illegible]　芭蕉

[illegible]　来山

[illegible]　芭蕉

[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]き[illegible]上　沾徳
[illegible]人や[illegible]の[illegible]人　素堂
[illegible]も三日月[illegible]　来山
[illegible]の井[illegible]　嵐雪
[illegible]いく[illegible]て月[illegible]　麦林
[illegible]の月[illegible]
[illegible]の[illegible]　蕪村
[illegible]踏[illegible]

木の葉

風

行人の[illegible]おち[illegible]
[illegible]柿の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]　希因
[illegible]　沾徳
[illegible]海の青　言水
[illegible]納[illegible]一枝[illegible]　希因
[illegible]せ　貝　其角
[illegible]

[illegible]　　其角

[illegible]　　嵐雪

[illegible]

[illegible]　　麦林

[illegible]　　蕪村

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬木立

[illegible]　　希因

[illegible]　　其角

[illegible]

二村は僅に一軒冬木立　　蕪村

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

枯木

[illegible]　　其角

冬枯

枯れ野に伊勢の嶽よ枯れをうし　芭蕉

柳さむくうらとむらくの雲ほそし　其角

枇杷冬

ものもとるもをそれ日ぞうら　蕪村

冬苔

うらうら赤ふもせぬ苔もちの爰　希因

苔の枝の月まさしくなる　延切

行の末と写さまるかうら　其角

山茶花

ふ茶の花の四時日の夕こう桃　希因

来山

言水

茶花

茶の花や利休の貝ふよりの山　沾徳

素堂

茶の花や ふるも笑るもおほけなる　蕪村

茶の花の花ぺんをえんらして侍るとて

枯尾花

尾花葉とのく仮表ひらく枯尾花　

ふる松の枯野　枯野

かれくらうの行方なるうれのこる　沾徳

ぬくもりよ枯るて枯野このれ　其角

蜀漆ふくて石の日の入枯野こうれ　麦林

大とこの書ぬるおくうの野　蕪村

むさくひの小ちくる枯野　

[illegible] 蕪村
[illegible]
[illegible] 希因
[illegible] 其角
[illegible] 来山
[illegible]
[illegible] 其角
[illegible] 沾徳
[illegible] 麦林

冬 [illegible]

冬景

冬川

冬の日

寒菜

石蕗花

大根引

冬菜

荳漬

蕪引

[illegible] 来山
[illegible] 言水
[illegible] 蕪村
[illegible] 芭蕉
[illegible] 希因
[illegible] 嵐雪
[illegible] 麦林
[illegible] 其角
[illegible] 嵐雪
[illegible] 其角

麦蒔　麦蒔や一畝は又むかしの人　麦林

冬ごもりの麦蒔を屋敷ごと　佑徳

麦蒔や百姓でもない思ひ出し　蕪村

風呂吹　日本の風呂吹けば虚山　其角

蕪汁　蕪汁や蕪のこころもとない又

納豆　閑居の穂ゝも淋しや納豆哉

納豆汁　佐渡ごとて又の寒さや納豆汁

おほ雪哉さぬ神を納豆汁

入さのゝ雪ゝ納豆汁

新蕎麦や宗匠の物食の納豆汁

初雪　初雪や掛ゝうりそる格のうち　芭蕉

初雪や子供の笑ひたるもの

初雪や幸庵居りやうりの

初雪や蕎麦とりの樽川　言水

初雪や鶴の警古る鶴の眠る　佐徳

初雪や花の枝枯の小士　其角

初雪や牧やうれて来る長谷

初雪ふゆまくるうちの寒の

初雪や赤ゝ朝　沈

初雪や門ゝ掛ける夕ゝ

[illegible]　其角
[illegible]
[illegible]
[illegible]十五夜の面影の酒
[illegible]
[illegible]白丁家　嵐雪
[illegible]　希因
[illegible]　麦林
[illegible]庵を叩く仲の月　蕪村

冬　十三

[illegible]
[illegible]　其角
[illegible]　芭蕉
[illegible]　其角
[illegible]　来山
[illegible]　蕪村
[illegible]　芭蕉

冬月

寒さ

我ものを猶よりてけりをさこうれ　麦林
侍業物書侍へ思ひるさむさ　其角
なりふるうの陣のをさを中をを山
弁を月ふるの花そまり　希因
書てをるる扉風のけるの　来山
我春をを着上てをる　蕪村
易あるを行をを流ををる
寺をく撞ををを嵐をる
四ををむ嵐のおれさむさ
火の新中をを津を網代　言水

冬十四

網代守

網代
千鳥

網代も大拍子をとるをんちり　其角
をを春をををく網代守
網代もをを春あ中ら拍子　麦林
新一ついう後のあをを自ら　其角
関の新中菜ををを中をを書　芭蕉
ひをるをさよさむさを浦の後関
春をを春あ嵐をれて中をを
揖をのををををををを水　希因
鉦浦屋の箏　盤をを小夜鶏　其角
明をを実夜明をの夢おをを

村千鳥其夜ハ寒し虎が許　其角

浦風にさそハれて鳴も大井川　、

千鳥なや冬の中なる浦千鳥　、

夕日和月の出しほや村千鳥　、

磯千鳥や捨て来る波に砕けける　、

沖の帆も十まで千鳥や浜千鳥　、

千鳥も船出を聞や川千鳥　希因

舟の煙をなかてちとりかな　麦林

吹来て相つれ行千鳥かな　、

星の夜の霜枕に鳴や村千鳥　、

羽織きて綱もきく夜や川千鳥　蕪村

風雲のよすがら月の千鳥哉　、

加茂人の火を燧音や小夜千鳥　、

磯ちどり足をぬらして遊びけり　、

走りよる浪やちどりの横ありき　、

鷗

汐波の枕首ハ波のとゝめの丸　其角

水鳥

水鳥や百姓ながら弓矢取　蕪村

水鳥や舟に菜を洗ふ女あり　、

水鳥や枯木の中に駕二挺　、

鷺

冬ざれのむら立にも鷺なりけり　鷺　沾徳

鴨

みづはなく

滝口や おりひ[illegible]池の鴨　其角

十[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]ひつ付や　山おろし　希因

[illegible]　蕪村

[illegible]　嵐雪

[illegible]

[illegible]鴨の[illegible]月[illegible]

[illegible]

門[illegible]　[illegible]の鴨　希因

[illegible]　其角

鵙　鶺鴒

本[illegible]や　石[illegible]

[illegible]　沾徳

[illegible]　其角

夜[illegible]引

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬蠅

[illegible]　蕪村

[illegible]　其角

十月蛍

[illegible]　嵐雪

蠣

[illegible]　素堂

[illegible]　其角

海鼠　嵐雪

海鼠くゝみむつゝれやゆ独住

海鼠酒の人くゝけて海鼠哉　希因

海鼠の中ゝ乾やうゝ切りくゝ生海鼠　麦林

海鼠の中ゝ月ゝ出ぬくゝけ　芭蕉

海鼠とらつゝぬくゝけ　其角

人参を大根ちうを飯汁

鉄砲のそゝけくゝや飯とけ

飯汁ふゝ女中の吸ふ郡

飯汁の中ゝ引ふる

書ぬ飯なゝゝ小夜辰

行縢月飯ひとの笑ふ

行孫ふのふゝやゝ下ふ

飯ゝ雪の飯

結人ゆゝ杉ゆの河孫ゝ

ゝ切ていふゝ飯の酉

ゝを少ゝ分ゝや飯ゝ　素堂

歌詠作の中入ふゝ河孫汁　希因

鱈
鮟鱇
藻魚

沖の豚の面白きを人々の眼前に　蕪村
雪ゝ せて叩くを伝よ鮟鱇
煙ゝ ぶの呉人いまだしぬくとけ
ぬくけの家活さて居る春雨哉
鮟汁の有ありしと撥しをり
待宵て鮟参入てゐる西人よ
雲うつて鮟けるよるの友とうん
鱠けをけいて歳又落るなり　嵐雪
ゝ鱇をふりけれて厨哉　其角
何よきん藻ゝとたゝ公冬ゝる

炭竈　炭竈やし終木亀井ゝ影の松　其角
炭焼　炭焼きのひとりそけん釜のうん
炭　ゝ炭別る火箸を斧の出る
ゝゝゝゝゝかの一束とのね炭
炭取　炭取の明やゝゝのゝ西ゝて　佑徳
炭賣　炭賣やゝ後の活ゝ鼻を炭る　蕪村
炭俵　炭俵ゝ後ゝゝゝ女ゝ邪　其角
　　炭俵　炭俵の明乃小庭ゝゝ炭俵　蕪村

摘綿　其角
蒲團　嵐雪
いとりせ〻商国千そう須ゞの雲　蕪村
虎の尾を踏たく猛ゞしさ哉
丈夫のこゝろ霞あるれむ哉
ちるゝ花をとゝめぬ人の哀
夜着　来山
ちるり森平岩屋忠兵の徒とも
狩場人落葉を天下の衾哉　嵐雪
衾
かゝる殺生せしうん猛ゞ古衾　蕪村
仏弥律ぶつりゝとぬるゝ

紙衾　言水
紙子　其角
よゝ冨士ゝ見ぬまでも見る稽
乎ゝ見て活る術も丈井川
強ゝふ所ゝふいとん落葉の冬
学ゝせ〻意の空高平紙ゝ衾
紙ゝ見てゝゝ所ゝ見ゝ
実字の所ゝ見ゝ矢ゝゝゝ
ゝゝ居の家ゝ紙ゝ　来山
矢ゝ移て所ゝの所ゝ紙ゝ　蕪村
ぬゝ所ゝ衣ゝゝゝ

頭巾

先をあく抜いて笠もなるほどなるように　蕪村
茶筅の雪の袋や投げさし　芭蕉
庵主のうしろ姿の頭巾かな　素堂
乃うれなる笠かぶりて投げ頭巾　沾徳
朝嵐るの目ひかりたる頭巾　其角
目をうつを笑ひて頭巾の浮雲　麦林
雪を写ぬるまるく丸頭巾　蕪村
引うつて耳をかくれむ頭巾かな　
ちりうるの頭巾肩掛さびをかな　
糸頭巾うるさ世のさるる僧もなる　

ちりめん頭巾ようなく角鍬哉　
町をいて平頭巾小風呂敷　
頭巾をてうりくの和漢法師　
糸しくもて見袋おもきもの人毋老人　言水
足袋をつて寒をのうれるかな　蕪村
足袋をつて寒を防て女房共　嵐雪
雑炊津平田螺丸もろ義　芭蕉
後の世をいうるるとんちのり　
金子屋の雪のたびやみちのり　
新ものの名やちるふるの義　其角

履と鞋
足袋

冬籠

嵐ふくもせつてなしけんふゆこもり　其角

侘人や嵐雪居士にまうさう　、

住よしと聟の名やふゆこもり　、

茶ちやうし撫さすりて冬ごもり　希因

おくれの思案も出ぬしふゆこもり　、

眼きうりきて妻に負しふゆこもり　来山

枕もとしぬ豆腐やふゆこもり　麦林

隣ぢから聟の伽りつ冬こもり　、

居眠りて我にかくれん冬こもり　蕪村

冬こもり壁をこゝろの山に倚　、

冬こもり燈下に書すとかゝれたり　、

勝手まて誰か妻子そふゆこもり　、

冬こもり佛にうとき心かな　、

冬構

藪のこうを根うくなひけふゆかまへ　其角

暦賣

いさゝかしやまた十月の暦うり　来山

○霜月

袴着

袴着やその子ふところ教て待　来山

冬至

新右衛門蛇足を誘ふ冬至かな　蕪村

室の梅　内義の古源をわすれぬ宮の梅　其角

冬の梅　去年のよりさらに冬の梅　希因

冬の梅　ふるの梅ふるの梅ちらぬ上　蕪村

顔見世　新しんを中吹いさむ下郎の格　其角

新しき中しれをたとるの浮世　蕪村

白ふとを中既うを世の飯時分　〃

うぶはをやしうをんをまくる東山　〃

神楽　町神子居宗のひいをとうぶ　其角

表神子中巣いさ白さ面の内　〃

里神楽　かうしう毎濃の行の浅火印くらけ　嵐雪

浅火焼　深夜の神子の神楽の油をぬりしろり　来山

ふるれとたら孫紙をんて墨神子　其角

浅火焼　浅火焼中ふるうたらくさ系の所　蕪村

浅火焼　中大中大中大中ふるの兵　〃

神叩　中味の塚も光るう神子武　芭蕉

神子ふるれさしふるやこの寒言　言水

神子ふるの系の中を春ふるう　来山

伊勢参を巻ぬてまこの神叩　其角

ふるふるかの武州ふるて神叩　〃

[illegible]
今ゲシ年[illegible]紙
[illegible]の松[illegible]
年[illegible]紙叩、
涼[illegible]ぬ[illegible]のうたたや搖叩
[illegible]紙叩
西[illegible]
本の[illegible]紙、
一瓢のいんて[illegible]、
[illegible]

其角
嵐雪
希因
其角
蕪村

雪

[illegible]表[illegible]雪[illegible]、
[illegible]
雪[illegible]、
[illegible]
雪ふし[illegible]、
雪の[illegible]、
[illegible]
[illegible]
二筋[illegible]雪、
[illegible]武士[illegible]門[illegible]雪、

芭蕉
素堂
治徳

奥うんてんなる松をて雪ちる　沾徳
幸の深さをしる世の雪
淋さなるもかなるもの雪
雪ぬぎ捨て松の雪
なしく茶の汁さしてこの盧仝も雪見い
雪をぬくもをうもも義経の女
淀鈍なこれ家伽すり夜の雪
埋木のふしくを移せ雪の友
教迦とうふを雪の黒木
冬ふしい物ふ保すれ塩釜

青柳を雪の振舞也　丸合羽
黒塚の家ひらひや国の雪
揚を塩ふきをしや雪の猿
陸奥ハ朱買旦すり東義の紬
かハうう弁国ふる雪の雪
廚竪の人なかりしをふの雪
雪ぬぎの人なかりしを雪人形
雪の黒ハ寒ちう雲黒ふる
戸陰ふのおよハ雪ちう松の雪
荷雪也大の家拾ふ山の竹

星涼り清帝やし雪うた庭
米袷の御湯もうりや雪の松
投出して雪うちはらふ人插袋
むつましれ雪の森庵の日和まち
雪の日や我足のくつ不のいろ
新ぎ寒り門の雪うく人も食る
手ぬくさに書きさ投し雪の窓
鴨川の鴨を挽輪ふ雪見るる
手ならひ炭さらていたうけ雪の門
諷ふてあきられるなうぬふしの雪

我雪とおもへば軽し笠の上　嵐雪
雪中に雲を投込かくひたる
門の雪日とさうひのよすここに我
雪ちこゆすりされ先つ紫の築波山
比雪にむかひにふらん人もひ雪
若竹のふる雪の光いふ那
明ぼのに食もちぬる雪のうへ
いさみやの雲ふや あれ雪に消かれ
猟治の火もみさらんて笠は雪
染の雪 下京の夜雪見るせり

蛇をせよ本気もせよ山ざくら　嵐雪

象の背のごとくに朝の白さ　麦林

蓋書を爲のがれやすの雪

歌の柳も雪の枯木やみそさゞい　希因

待をあさるよるふん雪の搗小麻　其角

我や餅牛よ雪ちく墓木茶花

そぐく行えを知ぬ雪のふる気　来山

餅のをのよいをもぬ杖を雪の影

ふぬの搗よ腐けり雪の響

いつをも山やをそ雪とよめ

花をもむ雪をはほふをいをの

ふををて砧や雪の比丘尼

雪を波んて塔ふ新の朝ふ

気ハをを朝ケくふ雪の夢

海雲よけのる傘ふを雪の雲

有ををぬ火新や雪の家ふ紅　蕪村

いををふん答寸　簑と　笠

灯火や永うふ気を雪の中

海家をふ海よ新の雪を蛟

雪の雲鳴ををふつて居をを

雪白し加賀の氏人ゐてうて　蕪村

編うけて渡の小橋を雪の人　〃

雪折や雪を渡る樊噲の下　〃

雪折やしよしよ雪の美濃の国　〃

雪丸け

雪やけ

雪吹

霰

武士の足て笑ふけふれうる　嵐雪

義経や しけうもそやとうふ底　其角

冬廿七

武義吹や雪を霰をうつく也ふ　〃

一ふうう矢根のふうけふれる　蕪村

海へふるけふ雪を沼の面と　其角

新出してうつくしうもんを霰　嵐雪

霰漂毋う編をうれうり　蕪村

ふもうれ桜の実乃七日市　其角

うもうれうも分いうう沈の雪　〃

古池や蛙飛こむうう水の音　蕪村

氷柱

水気の結まりて氷柱なる　其角

柱の雪雫なるらるのさらり

柱なりて樋よりたれ山なるの郷　来山

寒の氷

ちとせよりの麦穂もたれし雫哉　其角

氷

里よりひて雫なる田水を氷る　沾徳

尻川や武蔵の行の氷川

滝幅や氷の中より居さり書　其角

雫なるき樋の蓋閉る氷なる　来山

こいろよ氷ぬ紙のなること郷

蓋器に筆の氷を噛あるる　蕪村

河寒

山よりの減るに水減りて氷の郷

水仙

ちりて鶴の足干る岸と氷　沾徳

水仙や月は出ずに月出る　其角

水仙や絶ていての小島哉

麦林

水仙や麦の芽引るもなるなる

蕪村

水仙や人うつ無を見る

掃切て庭なさむし水仙哉　希因

ひとの少く柱外古葉うれ　蕪村

蕪

蕪畑て柱木の中を降り

韮　もて韮を刈る義の郭　蕪村

みぞれ中小雪の降こる韮畑

雁　雁つゝ雁こゝ雁こゝぬる家る舟　其角

雁　雁迄い鼠のうもれぬこゝこる　麦林

寒菊　かんこゝるい咲こゝて徐こゝ菊こゝ　蕪村

鳴鳥　荒一こゝこゝ中こゝ食のぬこゝこゝ　其角

鰍　鰍雲市こゝ力こゝ鰍こゝ　蕪村

杜父魚　杜父魚のこゝこゝるこゝ義こゝ

煮凍　煮凍中こゝ養こゝの外のこゝこゝ孫　其角

生姜味噌　こゝ義の岚中　行こゝ中こゝ生姜味噌　嵐雪

蕎麦湯　我のこゝこゝ乃柴打こゝ魚こゝ湯こゝ　蕪村

薬食　こゝのいこゝこゝ多こゝこゝこゝて柴こゝ　来山

毒中こゝこゝ毒こゝ柴こゝこゝ柴こゝ　蕪村

こゝこゝ茶こゝ茶こゝ麻ヶ谷、

宇佐の程麻入中こゝこゝ茶、

茶茶佐の亨こゝ美打茶、

こゝこゝ中こゝ徒居こゝ茶茶、

○十二月

早梅　言水
麦林
蕪村

寒梅　言水
麦林
蕪村

冬椿（鐵骨とも椿の枝をなづけ侍る）言水
言水

臘八　言水
言水
言水

寒垢離　言水
言水
言水

寒念佛　言水
言水
言水

海鹽の鹽海いつるる寒佛　蕪村
西方よりなる山寺や寒佛　蕪村
極楽の近道いくつ寒佛　蕪村

佛名會　来山
寒聲　来山
寒月　来山

寒夜　芭蕉

[illegible]

寒作　蕪村

[illegible]

乾鮭　其角

[illegible]

[illegible]　芭蕉

[illegible]　蕪村

生鮭　言水

[illegible]

獅使　其角

獅子走　芭蕉

[illegible]

素堂

[illegible]　其角

[illegible]

山陰の三歩をまなぶ事を学ぶ　其角

雪をいとゝ行とゝ雪の巻　桃

前よりうの小坡ゝよりゝ沙弓夢

山伏の戸ゝゝゝ出ゝ沙弓ゝ孔　嵐雪

侍ゝうゝ沙弓の形を梅の花　来山

差ゝゝゝ人寄る中ゝゝる沙弓ゝる

ゝゝひゝの帰ゝ中沙弓の屋門　蕪村

清涼の似ゝゆゝうゝゝ古　唐

古唐ゝゝゝ人ゝゝ系ゝ沙弓人　嵐雪

ゝれやゝゝれ猿ゝゝゝれ古拂ゝ　芭蕉

猿蓑ゝゝて只ゝゝ中淀芋の猿拂、

彼を義も、ゝて来ゝゝる猿拂、

猿ゝゝゝの墨ゝゝゝる梅の花　沾徳

猿ゝゝの侍ゝゝれゝ人の法度郎　其角

鼠を掃　孔花の玉中猿ゝゝ、

猿拂ゝゝゝゝゝ女房先ゝゝ中、

ゝゝ拂中ゝ侍人ゝゝ拂ゝ雑ゝゝ、

ゝゝゝゝ法ゝ侍所中ゝ猿ゝゝ、

ゝゝゝゝゝ沙弓ゝを俺ゝ必拂　義、

ゝ侍ゝゝ芳野侍四中ゝゝゝ、

[illegible]　来山
[illegible]　麦林
[illegible]
月代や三十日よりの餅の色　芭蕉
餅の形や雪ふる枝の咲　其角
[illegible]門ゆる餅の札
餅と餅ふる雪ふる事そなる
[illegible]
[illegible]や年の餅　希因
[illegible]　嵐雪
餅花
[illegible]　言水

[illegible]
[illegible]や冊の[illegible]園の梅
[illegible]年の指を咲[illegible]
[illegible]や灯[illegible]の新
[illegible]　希因
[illegible]　其角
[illegible]　麦林
[illegible]　芭蕉
[illegible]　来山
[illegible]　麦林
[illegible]海の[illegible]　其角
[illegible]
[illegible]

雜喉塵

年の市　年の市の年縁書賣を出すやしにを出すやしに　其角

さゝ柊　ゆゝしくもかゝるものかな年の市　蕪村

年越　年の市の梅を探るにおほつかなし　嵐雪

節分　豆をうゝるうちるる炭ひろる　其角

晩冬　明くれば渡りくれまくれば年の市　素堂

年内春　春もいくそばくの年のうち　麦林

掛乞　月をいく八日別深むれば年の末　来山

年の市　うるさくもひよの爲のこゝ待を持てる　芭蕉

歳暮

年の市　年の市後をうゝん羽織ものゝ　其角

年の市　我敷を出すの片寄や　麦林

年の市　古ぼく餞の四十よ年ぬ　嵐雪

年の市　いさゝ酌ん年の酒屋のうらなり　其角

年の市　うゝひゝ積る雪の小町寺　蕪村

年の市　角をゝぬるゝゝ雪のゝ波　来山

年の瀬　年の瀬や ひゝ丸のむ積の物貧　其角

年の瀬　年の瀬や 漕に揖をいれ行う　来山

年の夕　来山
年尾　甚角
年の内　希因
流る年　素堂
岡見　甚角
年木樵　言水
嵐雪
蕪村

衣配　麦林
年間　来山
年守　蕪村
年取
年の皺　言水
年忘　甚角

年の暮

天運もこゝろにまかせず　薫村
人やすらふ年の暮　素堂
降る雪を年とやらしの年　芭蕉
ぬき人よあるとおもひけり年の暮　言水
年ぞ年ぬぎてらくちもなるよう　沾徳
月日をぞ人の老もつもり老ぬ　甚角
降るとしの年ぞ年の暮
ぬるまをおるよ又降るひ
年経る度の小みや年のくれ
小仏堂りてなふん年のくれ

旅宿の夕日ちらつく年の暮
やりくまて又や狭蓬ふの暮
年中の殺下ろくろくれの暮
初年の牛洗ひ寄ろ〳〵の暮
千鳥のつるをせろ〳〵や年の暮
ふるとしをつゝ〳〵ゝ年の暮
猿猴のまよをかるやまの暮　嵐雪
蕎麦うちて肩張ろ〳〵の暮
おとくろやしをぞ笑ろれろ〳〵の暮
いつまりの猫なて寄ふろ〳〵の暮

行年

行年も戸板をたてゝ餘の後　其角

嵐雪

一年の雪
一日の風
三盒子の雪
かゝるとも
降るとも年の雪
陸奥の
みちのくの雪
雪の
芭蕉
白雪の
雪の
拾ひすて年の雪　言水

嵐雪
希因
其角
来山
蕪村
言水
素堂
来山

年暮玉祭

王子狐

大三十日

和布刈
搗
魂祭
搗

大晦日　弱おゆて日てそ　きさ久大晦日　其角

大晦日来らさうらう年忘れ

俳諧十家類題集冬之部終